



はせやまの風

舞鶴市立新舞鶴小学校だより

令和8年5月29日発行

学校HP

白糸中学校区「目指す子ども像」

自ら学ぶ子・人とつながる子

心も体も鍛える子・ふるさとを愛する子



「人」となる

先日、何気なく情報番組を見ていると、お笑い芸人「千鳥」の大悟さんが映画に出演するという内容が放送されていました。その映画の設定が、息子を亡くした夫婦が、亡くなった息子の姿をした「ヒューマノイド」（人間の形状や動作を模した人型ロボットや人間に似た存在のこと）を迎え入れるというものでした。今、急速に進歩するAI。そして、世界では、二足歩行ロボットが、ハーフマラソンでの人間の世界記録を破り、新記録を出したというニュースも耳にしました。いよいよロボットが人間と対等になる、いや超える日も近いと感じる今日この頃です。



翻って、今から300年ほどの前に、哲学者として知られるカントは、こんなことを言っています。

「人は人によりてのみ人となり得べし、人より教育の結果を取り除けば無とならん。」

人は一人では決して生きていけません。生きていく以上、必ず誰かとかかわることになります。子どもたちも然りで、学校という社会の縮図の中で、懸命に「人」になるための経験を積んでいます。気の合う一生の友達を見つけることもあれば、どうしても気が合わない人とも生活を共にしなければなりません。時には、衝突し、傷つけたり、傷つけられたりします。そういう様々な人とかかわり合う経験を積み重ねていくことで、人間関係の折り合いのつけ方やトラブルの回避の仕方、お互いが気持ちよく生活するための術を経験則として身に付けていきます。

学校教育の最終ゴールは、その子自身が自立し、厳しい社会の中で生き抜いていくための「生きる力」を獲得することです。社会の中で、自分にとっていい存在とは感じられない人と出会ったとします。しかし、その人と何とかうまく付き合っていかなければならず、逃げるのができない状況の時に、果たしてどのように自分の心を整理し、波風を立てずに過ごすか。これはそれまでの経験が生かされる場面だと思います。そういう状況を経験することなく排除してきていたなら、もしかするとその社会では生活できなくなるかもしれません。夢に向かって進んでいる途中なら、夢をあきらめなければならぬかもしれません。



改めて、「人は人の中でのみ人となる。」という意味を考えると、ヒューマノイドが進歩し、人の代わりになる時代が来ると言われても、ヒューマノイドはあくまでも人間型ロボットであり、人間ではありません。生身の人と人がふれあい、生活を共にすることに価値があり、人を人たらしめると考えます。子どもたちは、日々学校や家庭、地域の中で、いろいろな経験則を身に付けています。自分で解決できることもあれば、大人が介入しなければならないこともあります。そうやって大人の力を借りながらも、前に進もうとする強い意志が、将来の自分を形作っていつていることを、小学生なりに感じさせたいと日々思っています。

学校現場では、これからますます多様性の包摂（異なる個性や特性を持つ人々を排除せず、誰もが参画できる環境を整え、それぞれの違いを活かして共生すること）が求められます。子どもたちには、お互いの存在を認め合い、尊重し、だれにとっても居心地のよい学校づくりに、教師と共に主体的に参画し、将来につながる強い「生きる力」を自ら身に付けさせたいと思います。



週明けからは6月に入ります。6月は舞鶴市挙げての「いじめ防止強化月間」となります。いじめの未然防止及びいじめを許さない学校づくりを目指し、いじめの早期発見・早期対応とともに、児童のよりよい人間関係づくりに努める取組を展開します。ご家庭でも、人と人がよりよくかかわるための大切なことを話し合っていたく機会をとってもらえるとありがたいです。6月もご家庭や地域でお気付きになることがありましたら、すぐにお知らせいただくとともに、学校と連携してご支援いただきますようお願いいたします。

校長 亀井 敬介 教職員一同